

創業5周年を迎えて—— 美意識を礎とした両輪経営で、100年先を見据える

創業5周年の節目に

ファイントゥデイグループは、2021年7月に株式会社資生堂のパーソナルケア事業から独立してから、2026年7月で創業5周年を迎えることができました。これもひとえに、全てのステークホルダーの皆さまからの温かなご支援によるものと、心より御礼申し上げます。

創業以来、管理部門の立ち上げや自前のIT環境の構築、生産拠点の取得、研究開発施設の開所などを通じて、技術開発から生産、マーケティング、販売が一体となった経営体制を迅速に整えてきました。

その間、パーソナルケアに特化した企業として、「fino」や「TSUBAKI」など既存ブランド群に磨きをかけるとともに、「+tmmr(プラストゥモロー)」など新ブランドの立ち上げも進めてきました。同時に環境や社会の持続可能性に資する取り組みも推進してきました。

こうした両輪経営の実行により、「世界中の誰もが、素晴らしい一日を紡ぎ、いつまでも美しく、豊かな人生を送れるようにすること」というパーパスの実現に向け、着実に歩みを進めています。

かかる中、2026年6月にはBain Capital Private Equity, LPを新たな

株主としてお迎えしました。日用品分野をはじめ世界各地で企業の成長加速と価値向上を実現してきた同社の知見も力に変えながら、私たちは今後も地球と事業のサステナビリティを追求していく所存です。

創業5周年を迎えた今、私たちはパーパス実現に向けた想いを新たにしています。100年先の世代にも敬愛される存在であるよう、グループ全社員と共にたゆまず前進してまいります。

事業とサステナビリティを一体で進める「両輪経営」

ファイントゥデイグループの両輪経営とは、環境や社会の持続可能性と収益性ある成長を一体で進める経営です。この両輪を連動させることで、あらゆるステークホルダーから信頼・共感を得て、感動を共にし、パーパス実現につなげていく。こうしたサイクルのもと、経済的価値と社会的価値の創造を両立させることを目指しています。

2025年のハイライトとしては、持続可能なパーム油の調達に向けた取り組みとして、本社および生産拠点2カ所(埼玉県久喜市とベトナム)において、RSPO サプライチェーン認証を取得しました。また行政・

株式会社ファイントゥデイ
ホールディングス
代表取締役社長 兼 CEO

小森 哲郎

企業・市民が協働し、詰め替えパックリサイクルの社会実装化を目指す「神戸プラスチックNEXT〜みんなでつなげよう。つめかえパックリサイクル〜」へ参画し、会社の重要課題と設定している「サステナブルな容器包装」の推進を加速しています。これらの取り組みを経て、EcoVadis※の評価上位5%に贈られるゴールドメダルを3年連続で受賞しました。引き続きESGと事業のサステナビリティの双方を高める両輪経営を力強く推進していきます。

※ 評価対象企業数が180カ国、17万社以上である世界最大級のサステナビリティ評価機関（2026年7月時点）。

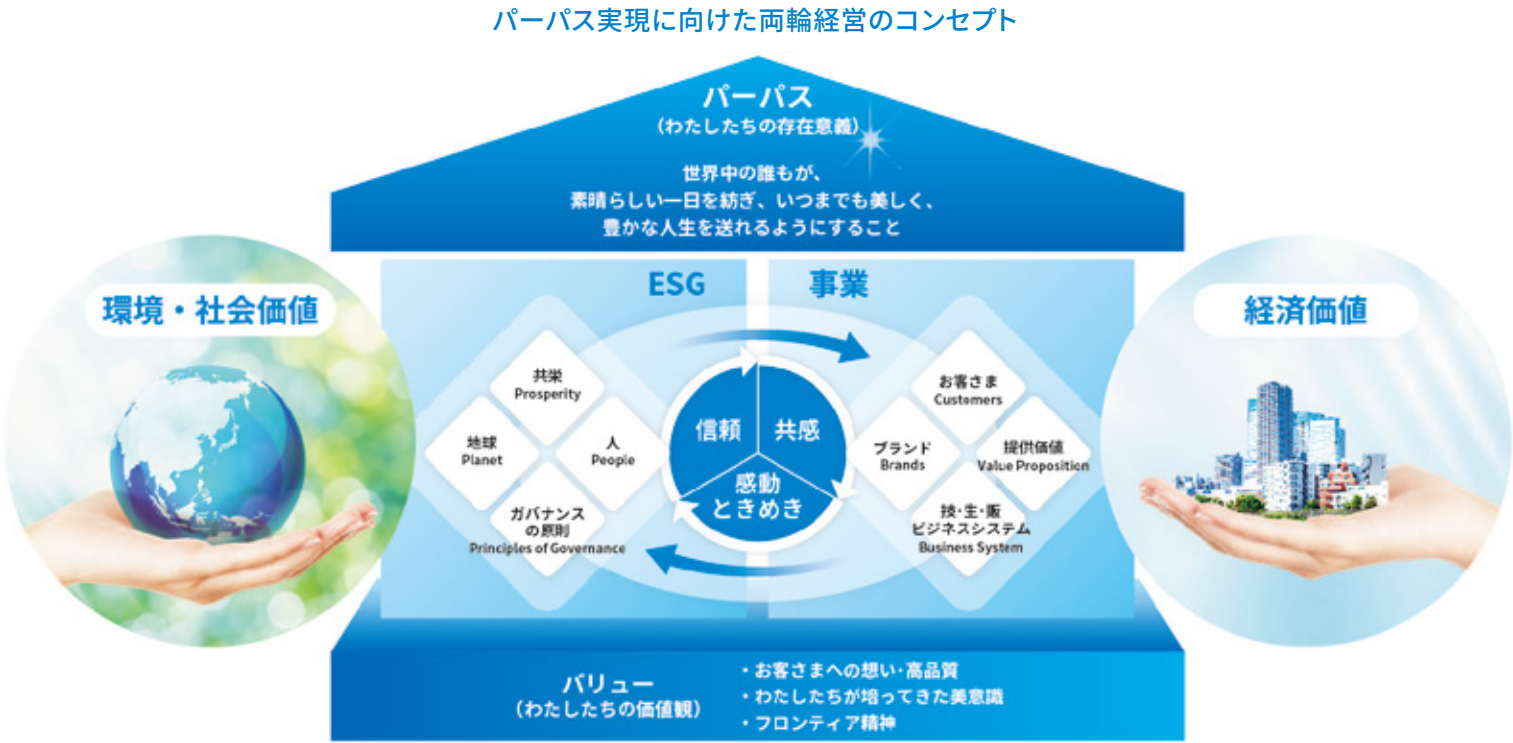
両輪経営の礎となる「美意識」

両輪経営の礎となっている価値観が、「美意識」です。これは前身の資生堂時代から、お客さまの肌に直接触れる製品を扱ってきた企業として脈々と受け継いできたものです。私たちの考える美意識は、外面的な美だけを指すものではありません。内面的価値、情緒的価値、また誠実性や高潔性、思いやりといった、人の心や身体、行動のあり方、そして社会

全体の豊かさにつながる価値を含むものです。

この美意識は、高品質な製品づくりにとどまらず、感情面に働きかける価値も含めた価格設定、マーケティングコミュニケーション、環境に配慮したパッケージ開発など、事業戦略策定から日々のオペレーション実行に至るまで、私たちのバリューチェーンのあらゆる面に現れています。

私たちは、日用品は単なる消耗品ではなく、生活者に自分らしい前向きな一歩をもたらす力を持つものと考えています。私たちは、美意識に根差した価値を日用品に宿すことで「日用美品」へと進化させ、毎日の習慣をときめきの体験へと変えていきます。そして、その自分らしい前向きな一日一日の積み重ねが、次世代へと受け継がれる美しく豊かな社会づくりにつながると信じています。



美意識を体現するオリジナルブランド「+t m r」

「美意識」を共有し、自律的に挑戦する組織へ

美意識は、人財育成においても重要な基盤であり、企業価値創造の源泉でもあります。

ファイントゥデイグループには、外国籍の社員が過半数を占めるなど、年代や出身業界を含め多様なバックグラウンドを持つ人財が集まっています。アジアの11の国・地域でビジネスを展開する当社グループにとって、この多様性は、各地域の風土やニーズを尊重した事業運営を行う上で大きな強みです。

この強みを最大限に発揮するために、私たちは美意識をグローバル共通の価値観として全員が保持した上で、互いの違いを深く理解し合う企業文化の醸成を進めています。Cultureship(カルチャーシップ)と題し、美意識が社員一人ひとりの日々の意思決定や行動に落とし込まれるよう、経営層を筆頭に階層別のワークショップをグループ全拠点で継続的に実施しています。この積み重ねが、模倣困難かつ競争優位性

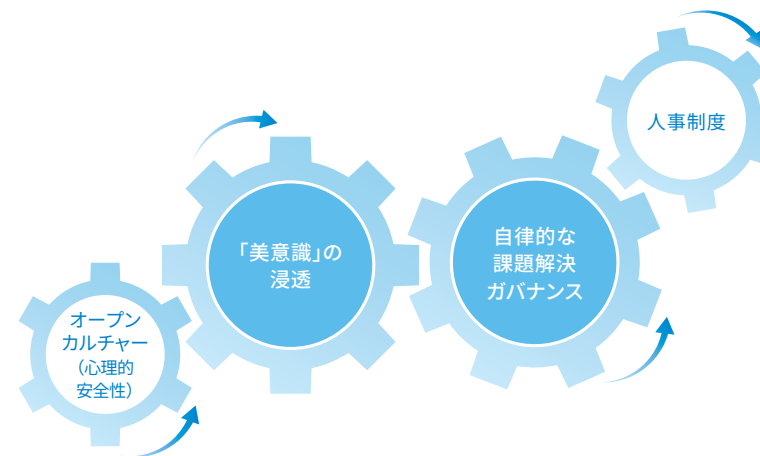


Cultureship ワークショップ(経営層)

を持った当社グループ独自の価値を社会に提供し続ける力になると考えています。

また美意識の浸透とともに、人財育成において重視しているのが「自律的な課題解決ガバナンス」という考えです。

私は、「課題指摘に咎めなし」という方針を繰り返し社員に伝えていきます。高い心理的安全性を背景に、トップダウンに頼らないミドルアップ・ボトムアップによる課題の発見・解決を自ら遂行する。こうした人財マネジメントを自律的な課題解決ガバナンスと呼んでおり、業績を含め優れた組織を持つ企業の特徴であると考えています。自律的な課題解決ガバナンスが美意識と歯車のように組み合わせさせて機能することで、社員同士が多様な価値観を自然に受容し合い、DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)が着実に前進します。これにより、さまざまな知見を持つ人財の育成にもつながると信じています。



オープンなカルチャーのもと、美意識と「自律的な課題解決ガバナンス」の歯車がうまく噛み合うような人事制度によって、人財育成とDE&Iを強力に推進。

社会・事業・人財の好循環を生み出し、長期的な価値を創造

これまで述べてきたように、美意識を製品づくりや人財開発をはじめ、バリューチェーンのあらゆる側面で発揮していくことが、私たち独自の価値創造の源泉であると考えています。美意識に根差した「日用美品」により、毎日の習慣をときめきの体験へと変えていくことは、人々の日常に前向きな変化をもたらします。その積み重ねが、社会からの信頼と共感、社員のエンゲージメントと創造性、企業価値の持続的な向上へとつながっていくと信じています。

ファイントゥデイグループはこれからも、社会・事業・人財の好循環を通じて価値を積み重ね、ステークホルダーから選ばれ続ける企業を目指してまいります。

株式会社ファイントゥデイホールディングス
代表取締役社長 兼 CEO

小森哲郎